

# 教科名( 美術 )

鵬DP評価表(教科用)		評価基準				
	鵬DPとその定義 点 数	S(応用) 5点	A(つながり) 4点	B(考え) 2点	C(入口) 1点	合計
DP	<b>再認識力</b>	既習の事柄を用いて制作を行い、更に工夫を重ねてより个性的で高い表現技能の作品作りをする。	既習の事柄を用いて制作に取り組み、主体的な態度で独自の表現を模索する。	既習の事柄を用いてどのように制作に取り組むか構想する。	既習の事柄を思い出すことができる。	
定義	・考えたり、振り返ったりできたり、得た知識や技能を応用できる力					
DP	<b>情報収集力</b>	教科書や資料集あるいはインターネットなどから情報を収集精査し、それらを活用して作品作りに生かすことができる。	構想段階において必要な情報を収集精査し、制作のための準備ができる。	▼構想段階において必要な情報を収集精査することができる。	▼構想段階において必要な情報を収集することができる。	
定義	・調べるための手段や対象を適切に設定できる力					
DP	<b>問題発見力</b>	作品の課題設定を正しく理解し、個性的に表現するための技法や表現方法を発見できる。	作品の課題設定を正しく理解し、表現するための技法や表現方法を模索できる。	作品の課題設定を正しく理解し、表現するための構想を練ることができる。	作品の課題設定を正しく理解し、主体的に取り組むことができる。	
定義	・課題を的確にとらえたり、捉えた課題から新たな視点や発見ができる力					
DP	<b>分析力</b>	情報を活用して、自分の作品を客観的に捉え、表現上の技法や考え方を分析し、次の作品作りに生かすことができる。	情報を活用して、自分の作品を客観的に捉え、表現上の技法や考え方を分析し、工夫することができる。	情報を活用して、自分の作品の表現上の技法や考え方を構想し、イメージを高めることができる。	情報を活用して、自分の作品の構想を練ることができる。	
定義	・論理的に思考できたり、データの特徴を的確にとらえることができる力					
DP	<b>共感力</b>	自分の作品と他人の作品を鑑賞して、他人の作品の良さも理解、共感して自分の作品に取り入れることができる。	自分の作品と他人の作品を鑑賞して、自分の良い点に気づくとともに、他人の作品の良さも理解し、共感することができる。	自分の作品と他人の作品を鑑賞して、他人の作品の良さを認めるとともに、その表現意図を理解することができる。	自分の作品と他人の作品を鑑賞して、他人の作品の良さを味わうことができる。	
定義	・自分の意見を主張するだけでなく他者の意見や感情を理解することができ、さらにいろいろな意見を総合してよりよいものを想像することができる力					
DP	<b>表現実行力</b>	自分の作品を通して表現意図や内容を他人へ伝え、質問や意見に答えてコミュニケーションをとることができる。	自分の作品を通して表現意図や内容を他人へ伝えることをねらいにして、コミュニケーションをとることができる。	自分の作品の表現意図や内容が伝わるように、ねらいを明確にすることができる。	自分の作品の表現意図や内容が伝わるように構想することができる。	
定義	・物事を他者に伝えられたり、実際に行動につなげる力					